

丹波2050地域ビジョンー概要ー

はじめにービジョンの役割・性格ー

- ◇2050年を展望し、2030年代初頭を想定年次とする「ビジョン」
- ◇ビジョン実現に向けた道筋、方向性を示す
- ◇参画と協働の理念のもと丹波に関わるすべての主体で共有
- ◇『挑戦・成長』をキーワードとする『未来志向のビジョン』

第1部「丹波を知るー学習・理解編ー」

I わたしたちの丹波ー風土・文化、ポテンシャルー

- ◇地勢・地質：氷上回廊(水分れ)、篠山層群(恐竜化石)
- ◇共生：森の国、源流の里、里山等での自然、生き物とのふれあい
- ◇豊穡：盆地特有の気候と肥沃な土壌から生まれる特産品の数々
- ◇伝統：古からの文化・文物が脈々と受け継がれてきた地、日本遺産
- ◇交流：京街道の要衝としての歴史、半世紀に及ぶ都市農村交流
- ◇気質：温厚な人々、寛容性に富んだ風土、強い集落の絆

II 丹波の森づくりのこれまでとこれからー継承と発展ー

- ◇丹波の森づくりの理念、活動
 - ・「丹波の森」=私たちを取り巻くすべての環境
 - ・丹波の森づくり=『人と自然と文化の調和した地域づくり』
『みんなの共通のふるさとを創っていこう』
 - ・「もりびと」=「森」を愛し、「森」を守るひとたちの総称
伝統を守りながらも未来社会を切り拓く能動的な人材
- ◇丹波の森づくりの取組と成果
 - ・丹波の森宣言に沿った取組で、制度整備、担い手育成、ネットワーク構築、拠点形成、特色ある活動の展開、ふるさと意識の醸成等の成果を生む
- ◇地域ビジョンの検証
 - ・地域ビジョンの将来像(自立、交流、元気、絆、安全安心)は一定程度達成されたが、人材育成、まちの活力など個々の課題も浮き彫りに
 - ・地域づくりが進展したが、人口減少によりコミュニティ機能の低下が課題に
- ◇これからの森づくりに向けて
 - ・丹波2050地域ビジョンによる丹波の森づくりの「継承と進化」
⇒丹波の森づくりや地域ビジョンの理念を継承し次世代につなぐ
⇒理念がめざす持続可能な社会の実現に向け、新たな取組を推進

III 2050年に向けた環境変化ー可能性とリスクー

- ◇長期的な人口減少・高齢化(人口減少社会への対応)
 - ・地域活動総量upに向けた関係人口の担い手化⇒開かれた地域づくり
 - ・人手をかけない持続可能な地域運営⇒スマート技術の活用
 - ・地方回帰の傾向⇒人口減少抑制に向けた移住・環流対策の強化
- ◇環境制約・資源制約の深刻化(ローカル・アクションの方向性)
 - ・環境負荷の削減、資源利用の最適化⇒低炭素化、食の地産地消、資源循環の推進、シェアリング・エコミー(共有経済)・循環経済の確立、バイオマス発電によるエネルギー自立、環境・経済・社会の好循環の実現
- ◇超スマート社会の到来(地域社会の新たな可能性)
 - ・個人ニーズに対応したきめ細かなサービス実現⇒移動の自由化実現等
 - ・地理的・時間的制約からの解放⇒多自然地域の可能性拡大、利便性よりも創造的活動を支える場(創造都市・農村)であることが重要に
 - ・仮想空間を介した新たな人と人の関係性拡大
- ◇人々の意識変化(暮らしやすく、チャレンジできる地域社会の実現)
 - ・様々なライフスタイルの選択が可能な地域づくりの推進
⇒一人ひとりに寄り添ったサービスの提供
 - ・人々の多様性を地域の力に⇒誰もがチャレンジできる仕組み構築

第2部「丹波を創るー構想・展開編ー」

IV 2050年の丹波を描くー望ましい地域社会の姿ー

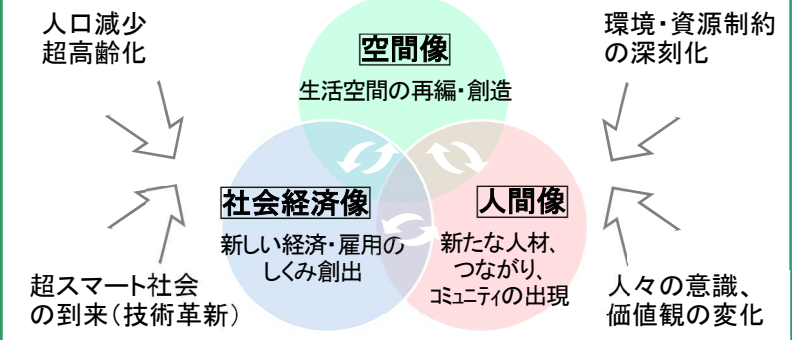
<基本理念>

人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチの創造・発信
ー「人」を創り、「森」を守り活かし、新たな「価値」共創に挑むー

<「丹波の森」は「未来社会の暮らしの実験場」、「共創空間」に>

- ◇人：最大の資源。人の創造力・想像力が地域を変える源に
- ◇技術：人口減少や環境制約の克服、生産性の向上に大きく貢献
- ◇「森」：守るべき存在であるとともに、暮らしを豊かにするために活用すべき貴重な資源
- ◇価値：丹波らしいオンリーワンの魅力(固有価値)の創出、世界に広がる持続可能な自律分散型居住モデル(普遍的価値)の創造
- ◇共創：目標を共有(「共感」)する人たちが、ともに学び、ともに成長し、ともに創る

<2050年の地域社会像>



V 将来像実現に向けた方向性

■空間像ー生活空間の再編・創造ー

◆「森」の保全と活用ー守り、活かすー

- 展開方向1 森・川・里の自然再生・活用
 - ・災害に強い豊かな森づくり、獣害対策(個体数管理・被害対策等)の推進、丹波産木材の利用拡大、木質バイオマスの利用促進、里山の保全・再生、里山づくりの担い手育成、生き物の生息環境に配慮した河川整備、多様性のある親水空間づくり、もりびとの環境保全・再生・創造の取組への支援
- 展開方向2 景観の保全ー温かくて、懐かしい丹波の景観を残す
 - ・景観保全の枠組みの堅持、丹波らしい景観の修景・情報発信・ルート整備、花に彩られたまちなか・集落景観の創造

◆集落、まちの創生ー居心地のよい「場」の創出

- 展開方向3 集落保全の仕組み構築ー未来へつなぐ集落資産
 - ・家屋管理や農地集約化、里山保全の仕組み構築、地域での共同活動の継続・拡大、暮らしの維持に係る共助の取組への支援、開かれたコミュニティづくり(集落運営の仕組み刷新、仮想コミュニティの構築)、集落の防災力向上
- 展開方向4 エネルギーの自律分散供給ー地産地消の実現
 - ・エネルギー自給率100%コミュニティの実現、バイオマス発電の拡大
- 展開方向5 次世代都市空間の創造ー懐かしも、新しい快適なまちへ
 - ・まちの歴史遺産の継承、賑わいのあるまちの再生、多世代が歩いて暮らせるまちの実現、新しい暮らし方・働き方に対応した次世代都市の実現、継ぎ目のない移動(交通)システムの確立

■社会経済像ー新しい経済・雇用の仕組み創出

◆新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

- 展開方向6 農の持続化・効率化とフードバリューチェーンの構築
 - ・農の持続可能性の向上、多様な担い手の確保、無人(全自動化)農林業の実現、循環型フードバリューチェーンの仕組み構築
- 展開方向7 ツーリズムの新展開ー多様化、地元化、仮想化
 - ・新たなツーリズム(マイクロ・ツーリズム)の推進、通年型観光の推進、食文化ツーリズム・森林ツーリズムの展開、脱観光型・非観光型ツーリズムの推進、丹波地域のプラント化と広域連携、デジタル技術の活用
- 展開方向8 製品・サービスの高付加価値化ー世界市場との直結
 - ・オンリーワン商品の世界市場展開、まちづくりと一体となった商業振興、地域性、ストーリー性を持った商品の開発
- 展開方向9 シリ丹バレー構想の推進ーエコシステム創出、DX化推進
 - ・地域発イノベーション創出の仕組みづくり、産学官民のネットワーク構築、ICTを活用した地域産業の生産性向上、優れた人材・技術の域内流入の促進、地域資源を活かしたビジネス推進、空き家・旧校舎等のビジネス空間としての活用

◆柔軟な働き方が可能な社会の形成

- 展開方向9 シリ丹バレー構想の推進ー起業・事業承継支援
 - ・誰もが起業しやすい環境づくり、伝統産業、農林業等での事業体と人材のマッチングを促進
- 展開方向10 多様なワークスタイルの創出
 - ・就業体験機会の拡大、人材の共有化促進、多種多様な小口のしごととのマッチング、副業人材の発掘・活用
- 展開方向11 多彩な食農人材の集積促進
 - ・多彩な農のある暮らし(半農半X等)の魅力発信・支援、異能の人材の流入促進、食文化発信拠点としての発展

■人間像ー新たな人材、つながり、コミュニティの出現

◆創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上

- 展開方向11 多彩な食農人材の集積促進 [再掲]
- 展開方向12 もりびと(担い手)の育成・発掘
 - ・地域活動等における若い世代の担い手育成、関係人口の積極的活用、市民イノベーターの参画促進
- 展開方向13 ソーシャル・インクルージョンの推進ー全員活躍型社会の実現
 - ・誰もが「居場所」のある地域社会の実現、すべての人が地域に参画できる仕組みの構築による地域力向上、ユニバーサルデザインの地域づくりを推進
- 展開方向14 創造都市・創造農村の形成ー文化の発信力強化
 - ・文化創造の拠点形成やクリエイターの交流促進による新たな文化・ライフスタイルの発信、集落等の伝統文化・民俗芸能等の継承・発信、シェパルティアード等の活動継承・発展
- 展開方向15 グローバル教育、国際理解教育の実践ー世界との連携
 - ・丹波の森大学のオープン化、グローバル化、多文化共生の推進、ウーエンの森等海外との交流の継続・発展
- 展開方向16 地域子ども・子育て応援プログラムの展開
 - ・子どもたちの自然体験の推進、こどもコト体験プログラムの展開、地域ぐるみで子育てを応援する体制の整備
- ◆人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現
 - 展開方向17 関係人口の拡大+移住・環流の促進
 - ・ビジターをゲストからホストへと誘う仕掛けづくり、移住者の生の声の発信、「人が人を呼ぶ」好循環の流れ創出、たんば暮らしの価値の再発信、集落・地区単位の情報発信、総合対策としての移住・環流対策の展開
 - 展開方向18 次世代コミュニティの形成
 - ・人と技術の力による安全安心コミュニティ形成、移動の円滑化、エネルギーの自給自足、循環型コミュニティの構築、シェアリング・エコミーの仕組み構築

VI 丹波2050地域ビジョンの推進に向けて

- ◆シンボルプロジェクト毎にその推進を図る「プロジェクトチーム」を結成 ◆次代を担う若者による「たんばユースチーム」の結成、様々な青少年事業との連携
- ◆各プロジェクトチームやユースチームの代表、各分野のネットワーク代表、学識者、行政等で構成される丹波2050地域ビジョン推進組織(「プラットフォーム TAMBA」(仮称))の結成
- ◆共創の風土文化づくりー「挑戦できる社会、開かれた社会へ」、「想いを共有し、つながりを育む」、「多様性が可能性に」、「伝統と革新」